

校訓：高く 明るく たくましく 入間野ルネサンス 継承と発展

学校だより

狹山市立入間野中学校

令和元年10月特別号

校長 尾澤 栄一

学校教育目標：志高く 心豊かに 自らを鍛える生徒

4月に行われた、2つの学力調査の結果を報告します。

埼玉県学力・学習状況調査の結果【対象学年 1年 2年 3年 4月11日に実施】

この調査の目的は「本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進すること」として行われています。また「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えることで、子供たちの成長していく姿が見える調査となっています。

【各教科の平均正答率】

	本校	市	県	県との差
中1国語	64.3	62.9	63.3	1.0
中1数学	60.3	60.7	59.8	0.5
中2国語	59.1	59.8	59.3	-0.2
中2数学	61.1	58.9	59.8	1.2
中2英語	57.2	56.6	56.3	0.9
中3国語	56.5	52.6	53.4	3.1
中3数学	58.5	59.2	58.2	0.3
中3英語	59.8	56.5	55.8	4.0

どの学年も「学力のレベル」が全学年のほぼすべての教科で県平均を同等か上回っていました。「学力の伸び」についても全学年すべての教科で伸びがみられました。是非、個票もご覧いただき、お子様の「伸び」を見ていただきたいと思います。頑張った点を認め、褒めてあげてください。

(個票は、配布済みです)

授業への取り組みも、どの学年も時と場に応じた態度を多くの生徒ができています。

【実施教科による結果の概要と今後の対応について】

国語 1年生は、漢字の読み書きは高いが、「話す・聞く」「読む」は、県平均より低いです。今後は、辞書を活用し語彙を増やし、話し合いに取り組みます。2年生は、漢字の「書き」や「文節」「主述・修飾の関係」などの文法が苦手。基礎基本の定着と反復を行い、言語活動も充実させる、3年生は、全てにおいて平均を上回っている。どの学年も自分の考えを発表させるなど、グループ活動を充実させます。

数学 1年生は、度数分布と百分率、分数に関わる問題が低いです。計算練習を多めに行います。2、3年生は、関数と資料の活用する力が低く、日常になじみのない概念に対する理解が不足しています。今後は、授業における十分な演習とできるまで支援するように配慮していきます。

英語 全体的に英語に対する意欲は高いが、表現（記述）の数値が低いです。今後は、英作文の練習に力を入れていきます。

質問紙 どの学年も時と場に応じた態度を多くの生徒ができています。清掃や美化活動や進んで挨拶する生徒の割合が県の平均より低いです。今後は、道徳教育等を通して、言葉遣いや礼儀について継続的に指導を行います。

この学力調査は、今年度、全国の中学校3年生を対象に、実施されました。今年度は、英語に、話すことの音声による調査が行われました。

【各教科の平均正答率】

	本校	全国	県	県との差
国語	75	72.8	73	2
数学	60	59.8	59	1
英語	60	56.0	56	4
話すこと	43	30.8		

国語、英語は、全体的に全国、県の平均を上回りました。数学を含め教科の大切さや意欲等が高い生徒が多かったです。生徒質問紙においては、学習に対する質問で肯定的な回答が80%を上回りました。

【実施教科による結果の概要と今後の対応について】

国語 「話し合い」の項目で、県の平均を下回っており、今後は、話し合いに関わる演習問題に取り組みます。

数学 関数で反比例の関係にあるものが低く、資料の活用ではヒストグラムに関するものが低かったです。数学は苦手ながらも大切だと思っている生徒が多かったです。

英語 4技能の中で「聞く」が最も低く、全国平均を下回っていました。CDなどを使って聞く活動を増やし、アクティビティなどを通して関心や自信を持たせます。

質問紙 自分自身に関する質問では、全国平均と比較して自己肯定感が低い結果となりました。今後は、生徒が活躍する場を多く設け、他者から認められる場面を設けます。

学力は、環境を整えることから

学力を向上させるには、本人の努力や学校、家庭における教育環境、学校の要因など様々なことが考えられます。今回の生活質問紙の調査では、自己肯定感が全国平均と比較して低い結果となりました。学校では、授業の他に行事や部活動、生徒会活動等を行い、生徒が活躍する場を多く設け、他者から認められる場面、他者を認める場面を設けています。本校では、行事や部活動等で自己有用感を育成していますが、その結果、学校が楽しいと答える生徒は、年々増加しています。また、学習をする上での教室環境整備や日常生活の凡事徹底から、穏やかな生活、人間関係を構築することも学力向上の要因の一つです。

同様にご家庭においても、子供への生活環境への働きかけとして「早寝、早起き、朝ごはん」「テレビ等の視聴時間等のルール」「スマホ等の使用について」などは、以前から言われています。さらに親の子への接し方として「よい所を褒める」「本や新聞を読むように勧めている」「小さいころに、絵本等の読み聞かせをした」

「何のために勉強するかについて話をしている」など、そのような家庭は、子供が意欲をもち、学習をしていることが言われています。また、保護者として、積極的に学校行事等を参観し、家での親子の会話の話題にすることも大切とされています。保護者が、子供の規則的な生活を整え、文字に親しみ、親子の会話を深め知的好奇心を醸成することも学力向上へとつながっていきます。

